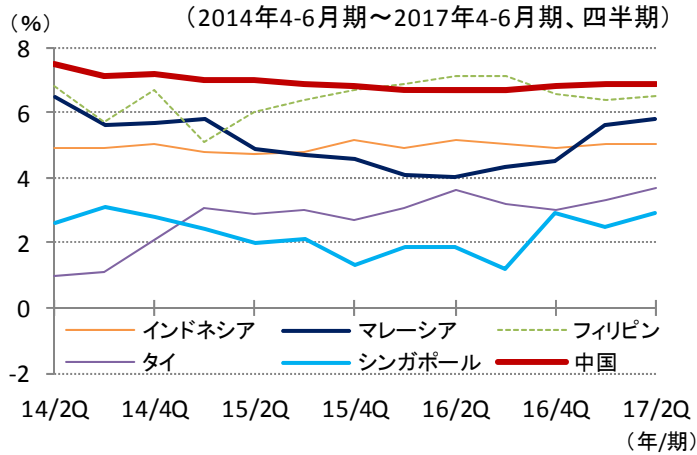
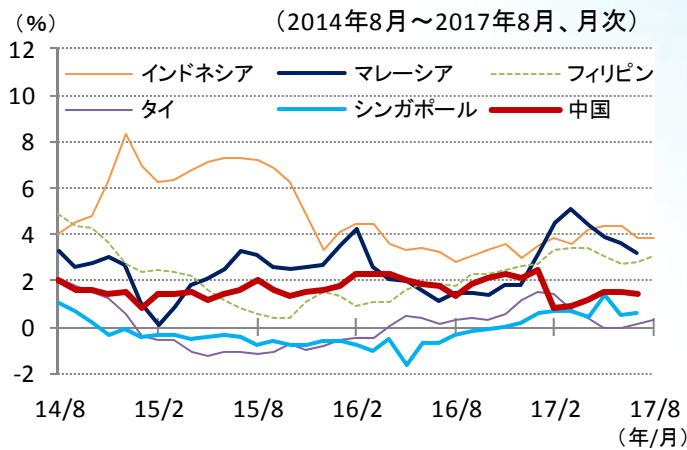


経済

各国の実質GDP成長率(前年同期比)の推移

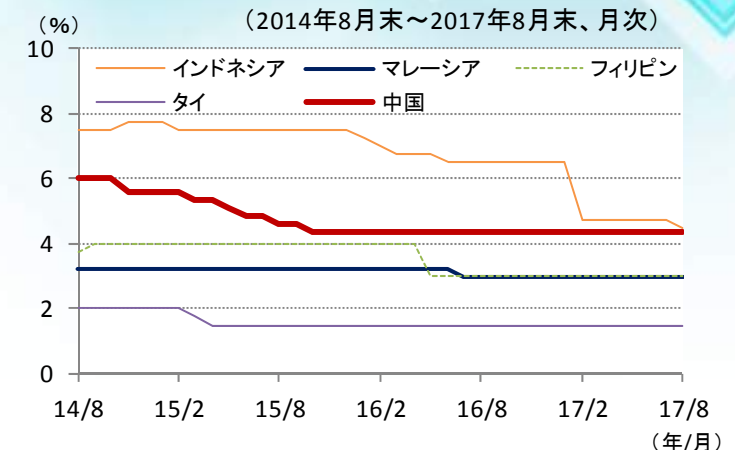


各国の消費者物価指数(前年同月比)の推移



※マレーシア、シンガポール、中国は2017年7月までのデータを使用

各国の政策金利の推移



※インドネシア:2016年7月末までBI金利、同8月末から7日物リバースレポ金利、マレーシア:翌日物政策金利、フィリピン:翌日物借入金金利、タイ:翌日物レポ金利、中国:1年物貸出基準金利を使用

【前月の経済概況】

中国の7月分の経済指標は金融市場の事前予想を下回ったり、前月と比較して伸びが鈍化するものが相次ぎました。7月単月の指標(前年同月比)で見ると、輸出・鉱工業生産・小売売上高の伸び率鈍化が目立ちました。また1-7月期の固定資産投資は前年同期比で+8.3%となり、1-6月期の同+8.6%から減速しました。引き締め気味の政策が続く中、民間部門の投資が落ち込んだ模様です。一方、中国当局の規制強化や米ドル安傾向を背景に中国からの資金流出が一服となり、7月末時点の外貨準備高は前月比で6カ月連続の増加となり、9カ月ぶりの高水準を回復しました。

アセアン主要国では2017年4-6月期の実質GDP(国内総生産)成長率が発表されました。前年同期比の伸び率では**インドネシア**が前期並みの水準となったものの、**タイ**、**マレーシア**、**フィリピン**は前期から加速しました。**タイ**は農業や観光業が牽引し、**マレーシア**は個人消費や輸出が底堅く推移しました。**フィリピン**も政府支出や輸出が改善しました。一方、**インドネシア**は個人消費の伸び悩みが続きました。

各国ともインフレ率は総じて落ち着いた推移が続きました。**インドネシア**では経常収支赤字や通貨ルピアの安定を背景に、10カ月ぶりに政策金利が引き下げられました。

【今後の見通し】

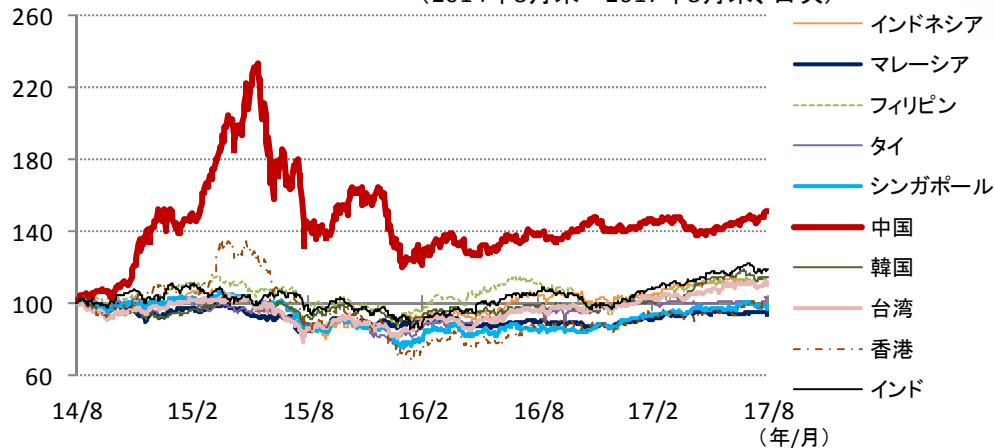
中国では共産党が5年に1度の党大会を10月18日に開催すると決定しました。党大会では最高指導部の人事などが決定されますが、習近平国家主席への権力集中が進むとの見方が大勢となっています。今後は習主席が一段と強固となった権力基盤のもと、「金融の規律強化」、「地方政府の債務問題」、「借金潰けだが倒産に至らないゾンビ企業の処理」といった政策課題に対する取り組みをどの程度加速させていくかによって、当面の中国景気の動向が左右されそうです。

アセアン主要国では引き続き安定した経済成長が見込まれます。各国ともインフレ率や通貨は落ち着いた推移が続くと見られ、緩和的な金融政策の継続が内需を下支えする見込みです。各国とも政府が積極的なインフラ投資の推進を掲げているものの、**インドネシア**など税収不足が問題となっているケースもあり、個々の政策運営の巧拙が成長率を左右しそうです。

株式

各国の株価指数の推移

(2014年8月末～2017年8月末、日次)

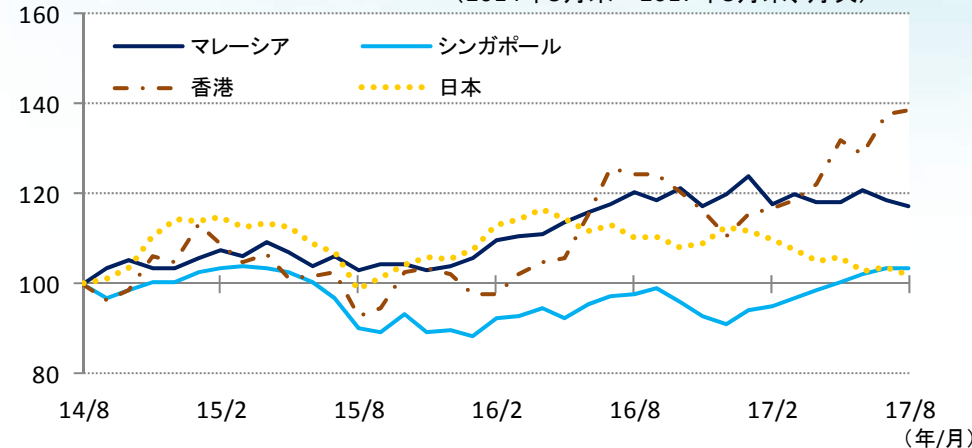


※グラフ開始日を100として指数化。使用している指数については4ページをご覧ください。

REIT

各国のREIT指数の推移

(2014年8月末～2017年8月末、月次)



※グラフ開始日を100として指数化。各国・地域のREIT指数は、S&PグローバルREIT指数(現地通貨ベース)の各国・地域のインデックスを使用。

【前月の市場概況】

8月のアジア株式市場は、まちまちの動きとなりました。北朝鮮情勢の緊迫化を受けて市場心理が悪化しました。7月に連日で高値を更新していた**インド**、**韓国**、**シンガポール**では利益確定目的の売りが加速しました。**インド**は月初に10カ月ぶりに利下げが決定されて材料出尽くし感が広がったこと、**韓国**では大企業や富裕層への課税を強化する税制改正案が発表されたことも、下げ幅を大きくした模様です。一方、前首相の海外逃亡の発覚によって今後の政情安定への期待が高まった**タイ**、スマホ関連など主力ハイテク株が底堅く推移した**台湾**などが上昇しました。**中国・上海総合指数**は、増益期待を背景に大手銀行株などが上昇し、2015年12月末以来となる高値圏で引けました。

【今後の見通し】

アジア株式市場は、もみ合い推移が見込まれます。

世界景気は底堅い推移が続いているものの、米国やユーロ圏では金融政策が正常化の方向にあること、引き続き北朝鮮情勢を巡る地政学リスクが意識されやすいことから、総じて高値圏で推移するアジア主要国の株価指数は利益確定目的の売りが上値を抑えそうです。

【前月の市場概況】

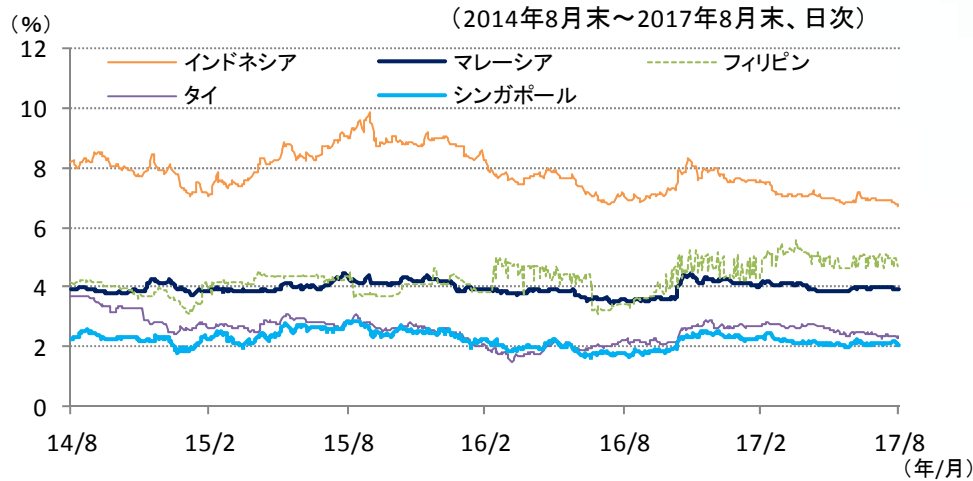
8月のアジアREIT市場はまちまちの動きとなりました。**香港**、**シンガポール**が上昇した一方、**マレーシア**は下落しました。北朝鮮を巡る地政学リスクの高まりや米政権運営への懸念などを背景に投資家のリスク回避機運が高まった一方、アジア域内の概ね堅調な経済指標や米国の長期金利の低下などが好感されました。

【今後の見通し】

引き続き北朝鮮を巡る地政学リスクの高まりが意識されやすいものの、低金利環境下における高利回り選好の動きがアジアREIT市場を下支えする見込みです。また各REITの業績は概ね底堅いこと、今後も市場全体では堅調な成長が見込まれることに加え、配当利回りやイールドスプレッドがともに相対的に高水準にあることもプラスに寄与しそうです。今後も短期的には外部要因に左右され振れ幅の大きい展開が見込まれますが、中期的にはREIT各社の概ね底堅い業績動向などが評価され上昇する展開を予想します。

債券

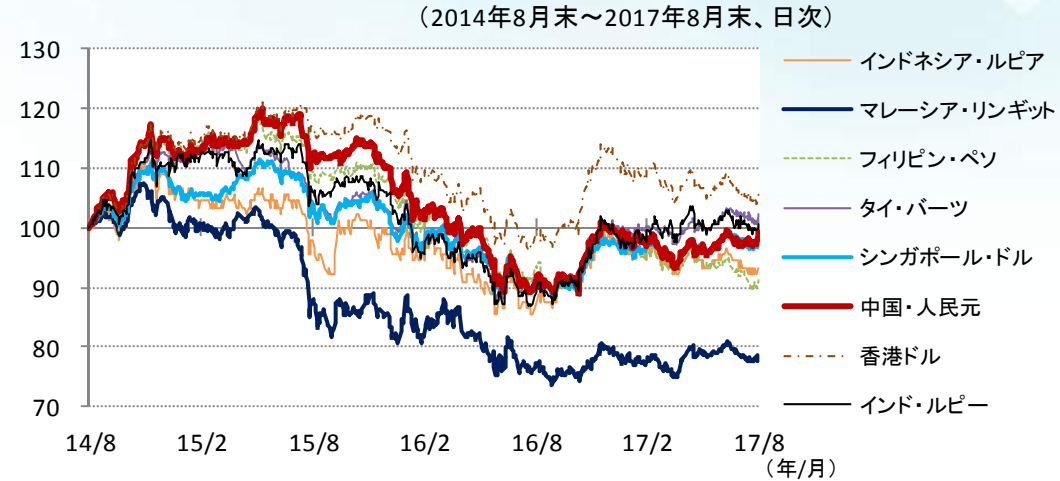
各国の国債利回りの推移



※10年国債の利回りを使用。

為替

各国の為替の推移(対円)



※グラフ開始日を100として指数化。

【前月の市場概況】

8月のアジア債券市場では、総じて国債利回りが低下(価格は上昇)しました。

各国ともインフレ率が総じて落ち着いた推移を続ける中、米政権運営への懸念や北朝鮮を巡る地政学リスクの高まりを背景に米長期金利が低下したことが影響しました。**インドネシア**では中央銀行が10カ月ぶりの利下げを実施したことを受けて、10年国債利回りは6.6%台まで低下し、2013年6月以来の低水準となりました。**タイ**の中央銀行は政策金利を据え置きとしました。**タイ**のインフレ率は低位での推移が続くものの、足元での家計債務の増大や通貨バーツの上昇傾向を勘案して利下げは見送られた模様です。

【今後の見通し】

アジア債券市場は、もみ合い推移が見込まれます。

アジア主要国のインフレ率は落ち着いた推移が続いており、当面は現状の緩和的な金融政策が維持される見込みです。北朝鮮情勢への警戒がくすぶる中、相対的に利回りの高いアジア債券には資金流入の継続が期待されますが、欧米長期金利の動きに左右される場面も想定されます。

【前月の市場概況】

8月のアジア通貨は多くの通貨が対円で上昇しました。北朝鮮情勢の緊迫化によるリスク回避機運の高まりが円買い材料となった一方、米国の利上げ観測の後退がアジア通貨全般の下支え要因となりました。こうした中、中国経済の安定化や中国当局による相場安定策を背景に**中国・人民元**が底堅く推移し、基準値ベース(対米ドル)で約1年2カ月ぶりの高水準を回復しました。一方、**フィリピン・ペソ**は足元での貿易赤字拡大や外貨準備高の減少、また過激派組織「イスラム国」の活動の活発化が懸念され、続落しました。ただし、下旬には中央銀行総裁がペソ買いの為替介入を示唆したことで下げ幅をやや縮小しました。

【今後の見通し】

アジア通貨は、対円でもみ合い推移が見込まれます。

アジア通貨全般に新たな独自の買い材料が乏しいと見られる中、欧米の金融政策の動向やアジア域内/域外の株式市場の動向など、外部要因に左右されやすい展開が続く見込みです。また、米朝間での武力衝突の可能性が意識されるような場面では、一時的に円買い・アジア通貨売りが強まりそうです。

アジア市場の主な指標(2017年7月末～2017年8月末、月次)

【株式・REIT】

国	指数名	月間騰落率
中国	上海総合指数	2.68%
香港	ハンセンH株指数	4.32%
台湾	加権指数	1.52%
韓国	韓国総合株価指数	▲1.64%
インド	ムンバイSENSEX指数	▲2.41%
シンガポール	ストレートタイムズ指数	▲1.57%
マレーシア	FTSEブルサマレーシア KLCI指数	0.75%
インドネシア	ジャカルタ総合指数	0.40%
タイ	SET指数	2.54%
フィリピン	フィリピン総合指数	▲0.74%
香港	S&P香港REIT指数	0.67%
シンガポール	S&PシンガポールREIT指数	0.34%
マレーシア	S&PマレーシアREIT指数	▲1.10%

※各株式・REIT指数は現地通貨ベース、配当なしを使用

【国債利回り】

国	8月末	7月末	前月末比
インドネシア	6.695%	6.951%	▲0.256
マレーシア	3.904%	3.993%	▲0.089
フィリピン	4.666%	4.674%	▲0.007
タイ	2.316%	2.431%	▲0.115
シンガポール	2.086%	2.096%	▲0.009

※10年国債の利回りを使用

【為替】

通貨(単位:円)	8月末	7月末	月間騰落率
中国・人民元	16.75	16.38	2.26%
香港ドル	14.11	14.13	▲0.14%
インド・ルピー	1.74	1.73	0.58%
インドネシア・ルピア	0.83	0.83	0.00%
シンガポール・ドル	81.36	81.32	0.05%
マレーシア・リンギット	25.86	25.78	0.31%
タイ・バーツ	3.32	3.31	0.30%
フィリピン・ペソ	2.16	2.18	▲0.92%

※為替は本邦営業日ベース、インドネシア・ルピアは100ルピア当たりのデータ

【当資料の掲載内容について】

※当資料に掲載している表やグラフは、信頼できると判断したデータを基に三井住友トラスト・アセットマネジメントが作成しています。

※当資料に掲載している見通しは、レポート作成時点における三井住友トラスト・アセットマネジメントの見通しであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。